

尾高高推 たかたか 歌人。文化九年六月八日佐渡生れ、明治二十年六月  
二十日歿（八二一八七）。舊姓堀口、小山、幼名市太郎、通稱俊助、富藏、  
富太郎。號槐園。十一歳で佐渡奉行の書記となる。和歌を好み、若く  
して近傍の歌人として聞えた。のち江戸に出て清水漬庄に學び、次いで  
上洛して大江廣海の節事。更に詩園を巡歴して大保十二年武州川越に  
家塾を開いた。藩主松平直克の知られ歌道師範となる。慶應二年藩主  
と共に前橋に移り、果進として郡奉行、權少參事、藩政にも參與。維新  
後權典事になじたが、程なく辭して歌道に専念。

歌集『槐園詠草拾遺』(櫻園家尊編、明治二十一年八月五日群馬・尾  
高次郎刊)等。